

通し番号	4 2 0 3
------	---------

分類番号	17-7B-22-20
------	-------------

(成果情報名) 平成16年え付け国産採卵鶏の組合せ検定
[要約] 国産の優良な採卵鶏を作出するため、外国鶏を対照として国産鶏の交雑種について能力検定を実施した。生産性では、産卵率、日産卵量、飼料要求率が国産鶏より外国鶏が優れており、国産鶏の生産面での改良が望まれる。しかし、卵質では、国産鶏は卵黄重が優れている傾向にあり、直接販売でのメリットがあると考えられた。
(実施機関・部名) 神奈川県畜産技術センター 畜産工学部 連絡先 046-238-4056

[背景・ねらい]

わが国の国情にあった優良な採卵鶏を作出するため、(独)家畜改良センターと各県が連携して、系統造成、系統間交雑種の能力検定を実施している。このうち、当センターでは系統間交雑種の能力検定を実施する。

[成果の内容・特徴]

- 1 供試鶏は、1区:ボリスブラウン(対照鶏)、2区:XS×YA、3区:MB×YA、4区:YA×XS、5区:YA×LA、6区:S52×YAを用いた。
- 2 産卵率の推移では、ほぼ全期間にわたって対照鶏が優れていた(図1)。
- 3 日産卵量、飼料要求率でも、産卵率の良かった対照鶏が優れていた(表1)。
- 4 ハウユニットでは対照区が優れていたが、卵黄色では4区、卵黄重では2、4、6区が対照区より優れており、卵黄重比も有意差はなかったものの国産鶏の割合が多い傾向にあった。(表1)。

[成果の活用面・留意点]

- 1 外国鶏と生産性及び卵質の比較をしながら国産鶏の能力向上を行っていく。
- 2 本県に適した系統の組合せを検索していく。

[具体的データ]

表 1 成鶏期の成績(20～80週齢)

項 目	1 区 ボリス	2 区 XS × YA	3 区 MB × YA	4 区 YA × XS	5 区 YA × LA	6 区 S52 × YA
飼料摂取量 (g)	107.0 ^a	117.9 ^b	115.1 ^{ab}	116.1 ^{ab}	114.9 ^{ab}	116.2 ^{ab}
産卵率 (%)	83.9 ^b	73.6 ^a	78.8 ^{ab}	74.1 ^a	77.9 ^a	77.7 ^a
平均卵重 (g)	62.2 ^{ab}	62.4 ^{ab}	61.5 ^a	63.8 ^{bc}	63.7 ^{bc}	64.8 ^{cd}
日産卵量 (g)	52.0 ^c	46.2 ^a	48.4 ^{abc}	47.4 ^{ab}	49.6 ^{abc}	50.4 ^{bc}
飼料要求率	2.06 ^a	2.68 ^c	2.40 ^b	2.53 ^{bc}	2.37 ^b	2.35 ^b
生存率 (%)	96.9 ^c	78.1 ^a	83.3 ^{ab}	88.5 ^{abc}	93.7 ^{bc}	86.5 ^{ab}
ハウユニット	85.6 ^b	80.5 ^{ab}	84.2 ^{ab}	83.0 ^{ab}	79.6 ^{ab}	77.5 ^a
卵殻強度 (kg/cm ²)	4.76	4.06	4.53	4.11	4.55	4.27
卵殻厚 (mm)	0.397	0.355	0.362	0.363	0.379	0.365
卵黄色	10.8 ^{abc}	11.3 ^{cd}	10.6 ^a	11.3 ^d	11.2 ^{cd}	10.8 ^{ab}
卵殻重 (g)	6.1	5.7	5.8	6.0	6.1	6.0
卵黄重 (g)	16.2 ^a	17.7 ^{bc}	17.2 ^{abc}	17.8 ^{bc}	16.9 ^{ab}	18.2 ^c
卵白重 (g)	41.4	40.4	38.9	41.6	40.8	42.4
卵殻重比	9.5	9.1	9.4	9.3	9.5	9.2
卵黄重比	25.5	26.9	27.8	26.3	26.5	26.3
卵白重比	65.0	64.0	62.8	64.4	63.9	64.5

卵質成績は 4 3 週齢時

異符号間に有意差あり (P<0.05)

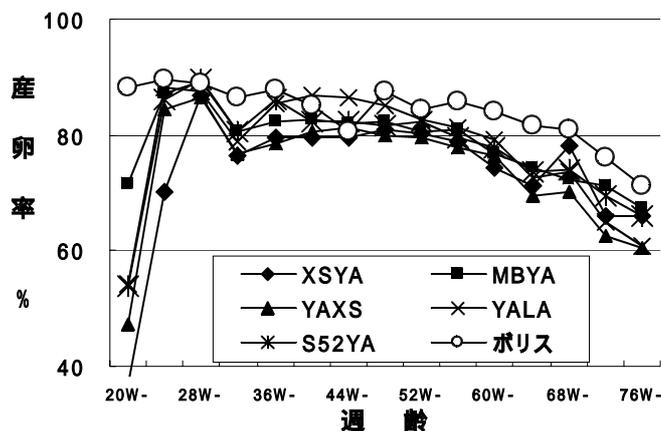


図 1 産卵率の推移

[資料名] 平成17年度試験研究成績書(繁殖工学・養鶏)

[研究課題名] 優良種鶏の組合せ検定:平成16年え付け鶏の組合せ検定

[研究期間] 平成16～17年度

[研究者担当名] 平原敏史